

特集 本とつながる、人とつながる

豊橋市図書館の 110年と未来



問合せ 中央図書館(☎31・3131)

1913 大正2年

●開館



図書館開館式
(大正2年1月15日)

初代図書館は、愛知県の市で初の公立図書館として、花田町字守下に開館しました。

1938 昭和13年

●公会堂横に移転



公会堂(左)と2代目図書館(右)

1945 昭和20年

●豊橋空襲
●終戦

1941 昭和16年

●太平洋戦争開戦

コラム 初代図書館 利用ガイド



閲覧室と閲覧証
(昭和初期)



開館当初、図書館を利用できるのは12歳以上だけでした。図書を読むためには有料の閲覧券が必要で、券の種類によって読むことができる図書の種類や冊数が異なっていました。図書は書庫の中で厳重に管理されており、基本的に館外への持ち出しができませんでした。

コラム 戦争と図書館

太平洋戦争末期、空襲が激しさを増した1945(昭和20)年6月19日から20日にかけて豊橋は空襲を受け、市街地の大部分を焼失しましたが、幸い図書館は無事でした。8月に重要図書約1,000冊を、物資がなく自動車が使えない中、牛車に積み現在の新城市の山奥まで疎開させるなど、貴重な図書を戦災から守り抜き、後世に伝えるための努力が続けられました。



空襲後の豊橋市街

1912

1912 明治45年

●4月1日
豊橋市図書館設立が認可
(図書館創立の日)

長い歴史を持つ図書館

豊橋市図書館は今年の4月1日に、創立110周年を迎えました。

豊橋には、江戸時代末期に、町人や吉田藩主が活動を支援して開設した国内有数の私設図書館「羽田八幡宮文庫」があり、古くから図書に親しむ文化が育まれていました。

激動の時代と図書館の取り組み

図書館は3度の移転を経て施設を充実させ、太平洋戦争や戦時下の思想統制などの苦難を乗り越えながら、市民が読書に親しむ機会を提供し続けてきました。また、戦後の市民の読書欲の高まりに応えるため、各市民館など74分室からなる図書館ネットワークを整備するなど、市内全域に読書の機会を広げるサービスの充実に努めてきました。

「知と交流の創造拠点」を目指して

明治から令和まで図書館が歩んだ110年間、社会や文化は大きく変貌をとげ、図書館に期待される役割も変化し続けています。図書館は、図書の収集・提供といった役割に加え、より楽しく便利で、誰もが立ち寄ることができる施設を、また「本と人」「人と人」とがつながり交流する拠点となる施設を目指し、これからも取り組みを続けていきます。

2021 令和3年

●まちなか図書館開館



1983 昭和58年

●中央図書館開館



図書館の利用者や蔵書数の増加に対応する市民文化の拠点として整備されました。図書の貸出・返却や予約、検索などをいち早くコンピュータ化しました。

1967 昭和42年

●市民文化会館に移転



現在の向山図書館

図書館やホール、展示室などの機能を併せ持つ総合文化施設として整備されました。中央図書館開館以降は、配本センター貸出室(向山図書館)を開設し、図書の貸出などのほか、各分室への配本業務を行っています。

2015 平成27年

●大清水図書館開館



1984 昭和59年

●中央図書館 ボランティアの会発足



図書館や市民館などで絵本や紙芝居の読み聞かせを楽しめる「おはなし会」を定期的で開催し、子どもたちが本に触れるきっかけを作っています。

1974 昭和49年

●司文庫開設



現在の司文庫

司忠さん(1893-1986)からの寄附金をもとに、絵本や教科書、美術書などの洋書を中心とする文庫を開設しました。

1960 昭和35年

●自動車文庫開始



1962 昭和37年

●緑陰こども図書館開始

約700冊の図書を載せ市内を巡る「自動車文庫」や、夏休み中の子どもに読み聞かせなどを行う「緑陰こども図書館」などの取り組みが、1983年まで行われました。

2022

図書館はどこへ向かうのか

過渡期を迎えている図書館

岩瀬学芸員(以下、岩瀬) 今回の図書館

は、過渡期を迎えていると思います。スマートフォンが急速に普及して、手軽に知りたいことを調べられるようになったので、図書館の利用者や本の貸し出し数が減ってきている。今後、どのように図書館を利用していただけなのか、そのために何をすべきかは、大きな課題ですね。

大林司書(以下、大林) 図書館の担う

役割も、時代とともに変化してきましたね。本の貸し出しサービスを行う施設から、市民の課題解決や生涯学習に役立つ情報を発信する、より身近で親しみやすい施設への進化が求められています。また、役割が変化するとともに、私たち司書の仕事への取り組み方も大きく変わってきました。

岩瀬 昨年のまちなか図書館の開催

は、図書館や司書がこれらの課題に取り組み、変化に対応し進化するためのターニングポイントだったと思います。

まちなか図書館の1年

岩瀬 まちなか図書館は、本と出会う

だけでなく、人や新しい情報との出会いを生む交流拠点として、まちづくりに貢献するというテーマを掲げている。まさに新しい時代の図書館です。もうすぐ開館1周年ですが、開館前に

想像していたとおりになりましたか。

大林 まちなか図書館の特徴の一つ

が、イベントや講座による、人から人への情報発信です。これをまちなか図書館の強みにしたいと考えていて、実際にそうなりつつあります。発信する人とそれを聞きに集まる人が出会い、生きた情報が共有され、交流が始まったり、たまたま図書館を訪れたときにイベントが開催されていて、興味を持って飛び込みで参加して、新しい交流が生まれたりということが、さまざまな場面で起こっています。開館前に理想像として思い描いていたことが実現していて嬉しいです。

岩瀬 インターネットなどからも情報は

得ることができそうですが、こういう体験は直接足を運んでみないと得られないですね。

大林 まちなか図書館は本の並べ方

にも特徴があります。従来の図書館とは異なり、司書が話し合っって本棚ごとにキャッチコピーを考え、関連した本を並べています。開館から1年経って「このエリアは、あなたが担当だね」と利用者に認知されてきました。「顔が分かる司書」になることで、この分野ならあの司書さんに聞こうとなれば、これまで以上に図書館は機能すると思っています。また、今まであまり利用したことなかった人にも、「面白いね」と言ってもらえるよ

うな図書館をつくることを目標にしています。そのチャレンジができるのが、まちなか図書館だと自負しています。

これからの図書館

岩瀬 まちなか図書館では、若い利用

者の多さに驚かされます。どの図書館も来館する若者が少ないのに。

大林 図書館を訪れる人が増え、層

が広がるということは、とても大きな一歩ですよ。小さな子どもから学生、社会人まで、利用する人それぞれが目的ごとに図書館を活用し、本や新たな情報、人との出会いを楽しんでいただけたらと思います。司書は、そのお手伝いをするための努力を、これからも続けていきます。

岩瀬 これからは、豊橋市の各図書館

がさまざまな利用者にとって便利な施設になるよう、それぞれの役割を担っていくことが、より重要になります。若者を中心に、今まで図書館を利用したことがない人も気軽に訪れることができる「交流・創造拠点」のまちなか図書館と、豊富な資料を活用して深く調べたい時に利用できる「知の拠点」の中央図書館が両輪となり、さらに「地域の貸出拠点」の向山図書館や清水図書館、市民館など74か所の分室すべてが連携して、豊橋市図書館としてサービスを行なっていきます。

まちなか図書館 司書

大林 正智

民間企業に勤務後、大学図書館や田原市中央図書館での勤務を経て、2020年から豊橋市図書館。「ROCK司書」として、トークイベントでも奮闘中。

図書館 主幹学芸員

岩瀬 彰利

豊橋市初の学芸員として採用され美術博物館での勤務を経て、2010年から豊橋図書館。博士(歴史学)。専門は日本考古学(縄文土器、貝塚)。

時代の移り変わりとともに、図書館に求められる役割は変化し続けてきました。その変化を肌で感じ現場で働く職員を代表して、歴史的な資料の保存や調査研究などを担う学芸員と、本の選定や貸出業務などを担う司書と、図書館の現状と未来を語っていただきました。

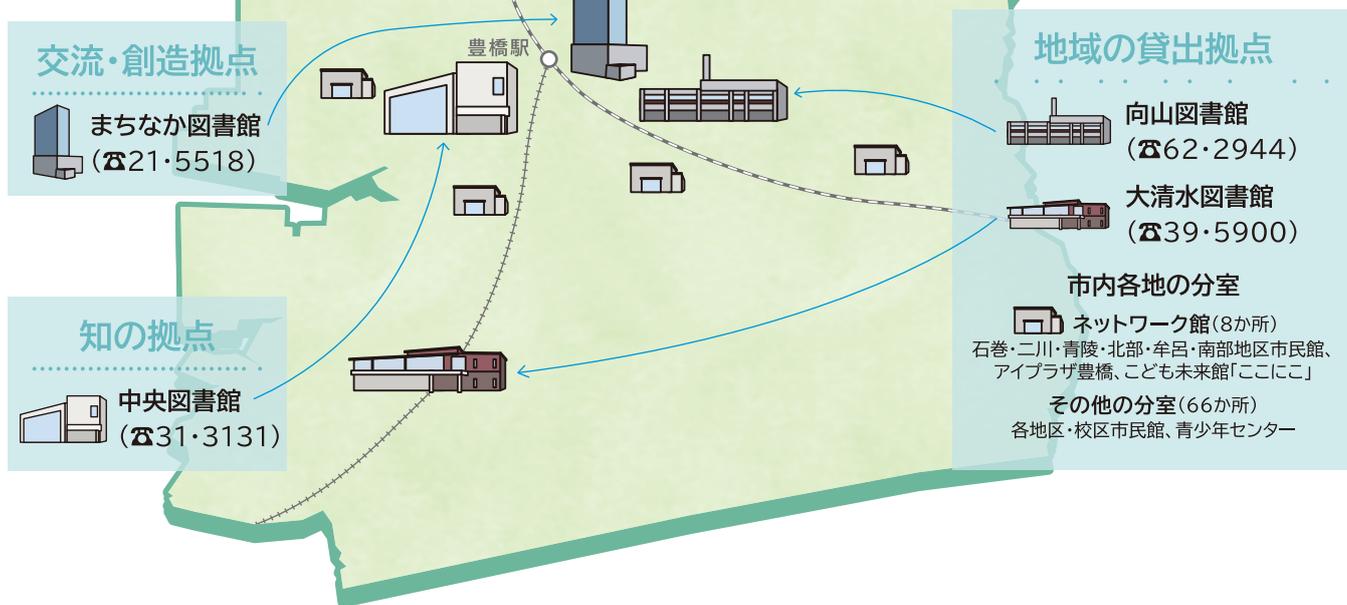


皆さんと本をつなぐ 豊橋市図書館



豊橋市図書館は、中央図書館と向山・大清水・まちなか図書館の3か所の分館、74か所の分室で構成されています。市内のすみずみまで本を行き渡らせ、誰もが住んでいる地域で本に親しむことができるよう整備された施設の数、全国3位の規模を誇ります。

全ての分室では、新刊本の追加や本の入れ替えを定期的を実施しており、本の貸出や返却、取り寄せができます。また、分室のうち8か所のネットワーク館(石巻・二川・青陵・北部・牟呂・南部の各地区市民館、アイプラザ豊橋、こども未来館「ここにこ」)では、本の貸出や返却、取り寄せに加え、図書館の貸出券を使用し、中央図書館や分館と同じように本の予約と受取、検索ができるなど、より便利に利用できます。ぜひお近くの施設で本を読んでみてください。



まちなか図書館 開館1周年イベント

問合せ まちなか図書館(☎21・5518)

郷土を掘り下げる! 羽田八幡宮 図書館のルーツをたどる

羽田祭の歴史や羽田八幡宮文庫に関するトークが聞けます。

とき 11/26(土)11:00

ところ まちなか図書館

出演 白井美穂(羽田八幡宮宮司)、岩瀬彰利(図書館 主幹学芸員)

定員 50人(先着順)

館長がいま会いたいひと 1周年特別編

地域に根差した出版社と図書館の役割や可能性について考えます。

とき 11/27(日)14:00

ところ まちなか図書館

出演 味岡伸太郎(春夏秋冬叢書編集長)、立古和智(㈱フリッジ代表)、種田滯(まちなか図書館長)

定員 50人(先着順)

豊橋市図書館 110周年記念イベント

問合せ 中央図書館(☎31・3131)

豊橋市図書館110周年検定

図書館の歴史やサービスなどから出題される問題に挑戦できます。

とき 来年1/7(土)

ところ 中央図書館

定員 110人(抽選)

その他 賞品(バッジ)などあり。スケジュールなど詳細は図書館ホームページ参照

申込み 11/15(火)~12/22(木)に図書館ホームページで必要事項を入力

豊橋市図書館110周年に選ぶ おすすめの110冊!

市民や団体が選定した、110冊の「未来に読み継ぎたい」本を紹介します。

とき 来年1/15(日)~2/1(水)

ところ 中央図書館